

(様式)

令和4年3月4日

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立御狩場小学校
校長 野村 佐智夫

令和3年度 狭山市立御狩場小学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議が円滑に進むよう、また一部の職員の考えでの提案にならないよう、資料は事前起案を経たものにする。 ・学級事務が見通しの下で進められるよう、必要な割り振り変更と確実な取得を行うことができるようにする。 ・児童理解に努めることができるよう、休み時間は、児童と一緒に遊んだり話をしたりしながら過ごした。また、を築くことを心がけた。また、授業中は、机間指導を行い、一人ひとりの学習状況を確認しながら授業を進めることを意識した。さらに、できるだけ肯定的な声掛けを意識した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、段階的な、系統性のある指導を学校として行ってほしい。 ・学習でも生活でも、活動のゴールが明確なものとしてほしい。 ・そこは学校として共有してほしい。
	2	児童は、学校生活が楽しいと感じている。	B		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が全員実施する授業研究はとても勉強になった。単級で先行授業ができない中でも同じブロックの教員で協力して取り組むことができたので、よかった。 ・学習内容の定着が十分ではない児童へ支援を、指導敬体の工夫や短時間の復習などの取入れを行いながら、引き続き行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の取組を見ていると、算数で「計算はできて文章問題は…」や国語で「漢字はできるけど読解は…」といった様子がある。タブレットの活用と併せて、読書推進も引き続き取り組んでほしい。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B		
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B		
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	B		
	10	児童は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習のきまり」は、取り組み方に個人差がある。全員が約束事を確認した上で取り組めるように、節目で再度、確認をしていく。 ・規律が守られない状況が一部に見られるので、改善を図ることができるよう組織的に取り組む。 ・言葉遣いが荒い児童や思いついたことをすぐに言いたくなる児童には、タイミングや語型を提示して変容を促す。引き続き、児童と接する上での丁寧な言葉遣いを引き続き心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態が個々でちがうので、指導の大変さがあるだろうな、と感じている。特性だけでなく、家庭の状況もちろろあるし。今は特に、コロナで親が大変なものわかるし、それが子供に伝わっているのわかる。 ・いじめは加害者はもちろんだが、傍観者の存在も問題である。また、大人がいないところで起きているのも当然である。「現場100回」という言葉があるように、子供のいる場へ色々な職員がまめに足を運んで、予防に努めてほしい。 ・グループワークで協働することで、互いのよさも苦手な部分も見えてくる。意図的に取り入れることで、ここにつながっていくのでは。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	A		
	13	児童は、時間を守って生活している。	B		
	14	児童は、きまりを守って生活している。	B		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童の体力を高めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業前のマラソンや体育朝会を状況に応じて行うことで、運動についての関心が高まっている様子が見られる。 ・給食指導は、低学年でも徐々に定着しつつある。現状として様々な家庭環境があるので、食事のマナーを学校でも引き続き行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食喫食の有無が生活習慣の確立や学校生活の円滑な過ごし方につながっているのはあると思う。コロナ禍ということもあるので、こんな状況だからこそ、健康教育に一層、取り組んでほしい。 ・子供は外遊びで体力の向上や人間関係形成を図っていると思う。そうできるような動きかけを引き続きしてほしい。
	17	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A		
	18	児童は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、状況を見て授業公開をしたり、学習支援・生活支援をいただけるようにする。 ・地域の皆様にご協力いただける本校の特色があまり出せず残念であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校以上に地域が学校に積極的に関わることが本校の特徴である。それをよく考えて、これからも連携を図ってほしい。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		